

帰っておいで

「黄色いハンカチ」というストーリーがあります。

一九六七年春のこと、シカゴから南部に向かう一台の長距離バスに、イースター休みを故郷で過ごすために大勢の学生が乗っていました。バスの中で陽気にはしゃいでいる学生たちにまじって、ひとりの初老の男がいました。学生たちは、この男が気になって声をかけたところ、彼は身の上話を始めました。

彼は、五年間刑務所において三日前に釈放されたばかりでした。妻や子どもたちに会いたいと思つてバスに乗ったのですが、彼の妻が彼を迎えてくれるかどうかわかりませんでした。五年前、刑務所から「おれのよいうな男を待つ必要はない。よい機会があつたら、再婚しなさい」という手紙を書き送っていたからです。彼は、釈放されてすぐ、「もし迎えてくれるなら、村外

れの樫の木にハンカチを結びつけてくれ」という手紙を速達で送り、バスの時間を知らせました。

いよいよ彼の村が近付きました。ハンカチがなければ、彼はそのままバスを降りすごしていくつもりでした。バスが大きなカーブを曲がると、樫の木が見えてきました。すると、その枝という枝に、何十枚、何百枚もの黄色いハンカチが、まるで黄金の花を咲かせているかのように、結びつけられていました。彼の妻は、彼を待つていてくれたのです。バスは、その樫の木の前に臨時停車し、学生たちは、彼を「ゴーイング・ホーム」の歌声で見送りました。

神も私たちを待つておられます。「わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。」（マラキ書3・7）聖書の中には、神の「黄色いハンカチ」が数多く、はためいています。

母の愛にまさる愛

一九六三年、当時四歳の村越吉展ちゃんが誘拐され殺されるといふ事件が起りました。この事件の捜査は困難をきわめ、犯人が捕まったのは、それから二年後のことでした。

犯人の母親は、次のような手記を残しました。「村越様、ゆるしてください。わしが保を産んだ母親でございませぬ。…息子よ、だいそれた罪を犯してくれたなあ。わしは吉展ちゃんのお母さんが吉展ちゃんをかわいがっていたように、おまえをかわいがっていたつもりだ。おまえはそれを考えたことはなかったのか。息子よ、おまえは地獄へ行け。わしも一緒に行つてやるから。それで、わしも村越様と世間の人にお詫びをする…。どうか皆様、ゆるしてくださいとは言いません。ただこのお詫びを聞き届けてくださいまし。…」

母親は、息子の犯した罪を、まるで自分が犯したかのように引き受け、できれば息子の身代わりになって自分が罰を受けたい、それがかなわぬなら、息子と一緒に刑罰を受けても良いと言っているのです。このことばに母親の深い愛を見ることができません。

しかし、母親の愛がどんなに深くても、息子、娘の罪を引き受け、身代わりになることはできません。それができるのはイエス・キリストだけです。キリストは、私たちが犯した罪を、まるで自分の罪であるかのようにして、その全責任を負い、十字架で地獄の苦しみを受けてくださいました。母の愛にもまさる深い愛によって私たちに赦しを与えてくださるのです。「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。」（イザヤ49・15）

ネパールの父と母

ネパールは一九五〇年まで鎖国政策をとっていたこともあって、医療の遅れはひどく、一九六〇年代に、全国に三百人の医師しかいませんでした。キリスト教海外医療協力は、ネパールの人々を助けるため、岩村昇医師と史子（ふみこ）夫人を派遣しました。岩村医師は病院に来る人々の診察の他、毎月、山地の村々を巡回して結核や天然痘の予防に力を注ぎました。しかし、このような仕事は、ひとりで出来ることではありませんので、岩村医師は青年たちに公衆衛生の技術を教え「村の衛生士」にしました。ネパール政府は岩村医師の方法を採用入れ、ネパールの山地に住む人々の健康は大きく改善されました。

史子夫人は、生後一年半のネパール人の赤ちゃん、マヤちゃんを引き取りました。マヤちゃんの母親が結

核のため、マヤちゃんを育てることができなかったからです。マヤちゃんの母親が病気で、父親が事故で亡くなったので、岩村夫妻はマヤちゃんを養子にしました。岩村夫妻はネパールを「わがふるさと」と呼び、人々から「ネパールの父、母」と慕われていたのですが、ネパールの女の子の両親となり、文字どおり、「ネパールの父、母」になりました。

「母」になるのは、出産によってだけではありません。パウロは「私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています」（ガラテヤ4・19）と言いました。男性のパウロが「産みの苦しみをする」というのは、不思議な表現ですが、これは、人を父とし、母とするのは愛であることを教えています。神はその愛で私たちを子どもとしてくださるのです。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

www.penguinclub.net